

とんからりん

サカタニ友の会ニュース



発行者
株式会社サカタニ
集西楽サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993
京都市東山区日吉町222
(七条こころ坂)
Tel・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp

月刊 発行会員新聞
編集酒谷義郎

平成も 終わるのか？

明治以降は、当 代天皇陛下が、
「存命中は、年 号が替わるとは無く、明治は43年、大正は15年昭和63年間使われて来ました。最近、83歳の高齢におおりの現陛下の御代の平成が、29年になる」とからその御継承や次の年号が、色々話題になっている様です。私も陛下と同年生、そろそろ、現役引退を考えた、い、何か、お尻が、さぼい気がするの頃です。

我が店創業主、祖父喜一郎は(酒屋 初代)は、先祖代々居住の(現宇治市)山奥の山村(大字・笠取村小字炭山)から、その父、竹次郎と妹と弟二人の一家を上げて、当時は、京都下京区だった現北斗町本町七条下に移住。曾祖父は、「橋小学校の小使さん(用務員)として働きました。が、早く亡くなり、長男の祖父は、本町七条角(現サークル)の醤油醸造店・津之興(勤め、そこに勤めて居た、祖母きぬと結婚、同家の借家、現在地の3軒裏に住みました。後、主家の後継者が、幼かったため、商売を引継ぎ、屋号に、主家の津を使い、丸津にし、酒販売も起きました。少し遡りますが、祖母きぬは、富小路五条上りの呉服商「笠原家」の次女に生まれましたが、女児は、他家に養女に出す習慣で、山科音羽の土屋家に。長女は嵯峨野の姥名家に。



また、が、その祖母は、土屋家が没落し、同家出入りの植木屋(山科大宅)に、吉田家、育てられ、後、津之興で働いた祖母、祖父と結ばれました。祖父の当時の苦労を知ったのは、我が家をビル化する際、古家の庭先沿の渡り廊下の壁下字和紙に、建造屋袋代〇〇銭、蔵下駄代〇〇銭と祖父の記した紙を発見したからです。後、上の弟は、三条縄手、米屋・下の弟は、左京区吉田一本松で、酒場を開業。妹は北斗町の大工に嫁がせ、昭和15年に、現在地の東の家も購入。伏見区深草に借家を八軒建てました。

酒販免許もない時代で、酒蔵から原酒を仕入れ、割水をして、上等酒は「神馬シシ」と。並酒は「喜貴シシ」と名で売り、店先に酒場スペースを設けていました。そして、我が家と同時期炭山から京都に移住した親戚知人「なな」に酒場の出店を勧め、そのグループを、神馬会に纏め、毎月会費を聞き、商売の勉強をしていました。祖父は、残念ながら、昭和20年、戦時の強制徴用で、身体を悪くし、敗戦を悲しみながら、昭和20年9月1日(敗戦直後58歳で亡くなりました。当時

第3日曜日開催日8月20日(定例:朝9時)

第151回:朝粥食べておしゃべり会
ご講演:河合美香様(報告者) 高木英智様



置けるのが重

本日の、ご講師は 河合美香さん
◎テーマ 出会いと環境が 人生を変える
「スポーツ嫌いの私が体育教員に。スポーツ嫌いだっただがジョギングをする父親の影響で走ることは続けていたところ、小出監督にスカウトされて、千葉県の高校へ進路変更。インターハイ、国体優勝、大学時代はインカレ優勝。実業団でも小出監督の指導を受け、その後、大学院に進学、今は龍谷大学でスポーツ栄養学とトレーニング科学を指導。能力を伸ばすには運動と食事と休息と意欲が重要な要素。無名の選手もよい指導者との出会いで才能を伸ばす(高橋尚子さんは無名だったが、小出監督から君ならできると励まされ続けて金メダリストに)。環境が価値観、評価を左右するのでどういう環境に身を置くのかを重ね。



要。私たちはオリンピック選手のような秒単位で運動を争う運動ですが、河合先生は、運動は苦しいというのとは全然な考え方だ。健康寿命とは日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間のことを言い、運動はここをペースで苦しくなるほどにこなくてよい」と。食事は粗食よりも動物性のタンパク質(肉食)を摂ることが大切。おいしく食べて楽しく運動することが健康の維持、体力の向上につながり、健康寿命を伸ばすということを教えていただきました。今の自分の身体はこれまで食べてきたものでできていますので、何を食べるのかは大切です。

毎月七日:恒例: 七条大橋を キレイにする会

◎日時:九月七日(木)
◎集合:七条大橋 東詰南
作業時間 AM9時~10:30
◇掃除用具:手袋、雑巾、小さいスコップ等は各自ご持参等ご持参ください。
◇終了後 集西楽サカタニ邸にて 小一時間程度 お茶を飲み反省会
写真・毎回参加の 清掃協力中の フラリパットの お入様です。



お詫び

9月号とんからりんの作成が遅れお尻が3〜4月しました。お許し下さい。残念ながら83歳になり、能力が低下したようです。◎来年3月最終号予定

とんつき

▽52歳時、

わが社は、酒屋の店舗をビル化し、酒屋から、業務を、当時、深夜スパーと呼ばれていたコンビニ・ファミマに転換しました。

▼当時、ファミマは、堤清二氏が率い、西友系。氏は、小説家でもあり。その著書で、私と似た家族環境で育たれたお方で、勝手に親近感を持ていました。

▼ローンや地元チキンからのもお誘いがありましたが、前者は経営理念に違和感。後者は、ローカルの将来性を考え、お断り。ファミマに加盟しました。

結果は正解でした。

▼酒販店時代は、月初三日間「フッシーネーセル」の名で酒も含めた特売を始めました。が、ファミマでは、契約条件の縛りで、特売や販売方法を辞めざるを得ず、会を創った。▽友の会は年会費要。ダイレクト・チラシを封入で、注文をお届けする仕組みにしました。このとんからりんその時に発行を始めました。当時「まい」の名でした。

▼以後に、東京池袋へ、孤立した親子心中事件が有り、と戦時中の官制隣り組の「トントン」からりんの歌詞を思い出し、新聞の名に致しました。作詞は漫画家 岡本 平氏。▽例え戦時官制でも、良い意味で使えば良いと思つたのです。でも、書き続けるのはシンドイなあ

なんた坂 こんな坂

昭和28年8月
14〜15日の南
山城大水害後



その頃、当時、ニクソン副大統領が
来日。京都から奈良を訪
問されることなり、井手
警察署が、府命で、小屋の赤旗を下げ

井手町木津川堤防上の、救援作業
小屋(空屋)に一人で住み、ポールに
赤旗を掲げ、昼は、民家復旧のお手
伝いをしていた。赤、ボラシキの書は
無く、水害救援隊。当時、府が被災者に
配布数が少なく、途中で消えた点
検、町の、ある有力者が、関わったと
判り、その氏名を記し、告知ビラを撒
き、電柱に、ビラを張っていた。そこへ
有力者子分の若衆達が来て取り囲み
「ツイ、殴るな、ちか、と脅かされた。
私は一人、少々ビビったが、証言を聞
取り、嘘は書いてない殴るなら殴れ！」
が、仇は、必ず組織が執つて呉れるだ
ろ」と言い返した。彼らは、手出しを
止めた。

組織の上部から来る金は、雀の涙。
ビラ貼用糊の残りを団子汁に入れて
食へ、飢えを凌いだ。が、糊になった後
で、味が染みこまず食へられたもので
無かった。時々、夜に小屋入口に、何
方かが、野菜や米を置いて下さり、
厚意に甘え、それで凌いだ。又、奈良
電(労組)の好意で、電車は顔パスで
載れたので、伊勢田のワトロ在日朝
鮮人集団の朝鮮人宅に、パンを売
りに行った。訪問すると、彼らの習慣
で「ムム同志、飯食ったか？」と尋ね
て呉れる。それを幸いに「マダです！」と
返事をすると、「ムム同志、コレをタベヨ」
と、超辛い朝鮮料理に有り付け、大
いに助かった。体裁の良い食その影
響は、今も残り、ニンテや唐辛子には
滅法強い。

京都が京都でなくなる」といふこと
で危惧しています。私の尊敬している
哲学者内山節氏が「ローカリズム」を
提唱しています。京のみでなくロー
カルはいかになものか」と言われそう
ですがこの考え方は「一考の余地があ
る」と思います。その考え方を今回は
紹介します。

ローカリズムとは何かというと、自
分たちの生きている地域の関係を大
事にし、そこに生きる人間たちとの
関係を大事にし、その自然との関
係を大事にし、グローバリ化
する市場経済に振り回されない生
き方をするということです。ここが
自分たちの生きる世界だという世
界をしっかりと守ろうとする人々と
連帯していくことです。

現代社会は、個人を軸とした国民
国家・市民社会・資本主義という仕
組みで展開していましたが、そのす
べてがシステムに管理された社会と
してつくられてきました。国民国家
では国家システムに管理され、市民
社会も社会システムに管理され、資
本主義は市場経済というシステムに
管理されています。システムに管理
された個人はどんどん無力化してい
きます。

人々は問題の所在がわかっていても
システムから逃れることができない無
力な人間になってしまいます。それに
対する反撃が反グローバリズムであ
り、ローカリズムだといえます。ローカ
リズムというのは個人をシステムが管
理するというかたちではなく、小さい
単位の共同体、共同の世界をわれ
らが世界としてつくり、われらが世
界を基盤にして世界を変えていく、
そういう動きです。



これは内山節氏「ロー
カリズム原論」からの
引用です。
写真 稲荷名物
焼き鳥

そんな
女の子だった？ (NHK朝の
石動敬子 遠くより)
主人公みね子は団塊の世代。
ほぼ同世代のため、都度、其の頃、
あの頃がよみがえります。
そう、ミニスカートでした。よく
まあ、というほどの膝上、数セン
チ。その後べらぼうに長いスカ
ーでも流行ったり、髪型にもはやり
廃れがありました。仕事柄、ショ
トカットの女子高生を相手に過
したためか、今もつてボブショ
トだけれど、最先端のお洒落に触
れて来たような気がします。思え
ば遥かな半世紀の京住まいでした。
遠くみちのくの県立女子高を卒
業した化粧つなぎなミニスカート
はいきなり大学紛争の渦中に。誘
われるままに、クラス討論や集会
に参加し合唱団「安保研」の比叡
山夜間登山や、女子寮仲間との大
文字登山など、百万遍あたりは無
いのに等しいニューヨーク暮らしの

数の思い出の地です。
その後就職。初めて
化粧というものが必
要かと思ひ、言われ
るままに品揃えし、
励んだものでしたが、
ぶつぶつ吹き出物、円形脱毛症
もでて、挫折し、やがて、それで
も化粧したい貴女に」を学級通信
に連載したりしました。
水を沢山飲むのよ」とか、自分
らしく「季節の移り替わりこそ
日替わり教科書よ」など、感性が
大事」を信条に、読解より創作中
心の独自の国語を最先端の実践に
学び試みつつ還暦にたどり着きま
した。

いま 最新型のお婆ちゃん」と
歌ってくれる NYの孫たちと
過ごす夏の70日も終わろうとし
ています。賀茂川や京都府植物園
祇園祭や地蔵盆、河川敷を5人で
サイクリングしたね。山も川もな
いに等しいニューヨーク暮らしの
現風景」に京都がすっかり根付
きますように。
女の子は娘、孫2人ずつ。どの
子も健康でお洒落も最先端を行っ
てくれたら嬉しいな。一人は銀座、
もう一人は、祇園にスカウトされ
るかもと、ばか婆ちゃんを楽しみ
にしているよ。日米両国のどちらの
国籍を選択しても「平和」とは言
えない地球の住民。心も体もちょっ
とのことではめげない芯の太さが
大事だよ。それから、アイスやゲー
ムに目の色を変えても、ピアノの
レッスンは鳥の行水程だったね。
芸は身を助く」好きこそもの
の上手なれ」とか。憧れは大切に
すること。飛きれいにしたら」
の進言にはドキッとしたけど、昭
和育ちのちびまる子ちゃんカット
の婆ちゃんは今も十分だわ。
平成も間もなく終わるだろうけ
ど、次の時代の君たち 最新型の
少女期」楽しみ。
2017.8.25

京都&東山 ぶらりピカリ

75

七条通

24

京都のあの人種なかもしれない。この七条通りは、阿弥陀が峰の裾、東大路の、知積院の山門から始まる。阿弥陀々峰は、あの天下人、豊臣秀吉公の墓所が有る。中腹の、太閤垣、ダイウダイウで、お金、を払い、三百

く通りで、七条通り、何方かと行けない。過つては無料であり、平安高校、野球部が練習で降りをしていた。当時は、春夏の甲子園野球大会、常連校だった、有料で止められた故からか、同校の甲子園出場は減った様だ。北側に、国立京都博物館、南側は、元々は、宮家の大邸宅、だったが、現在は、京都パークホテル、その西は三十三間堂。更に下り阪で、鴨川の七条大橋に至る。

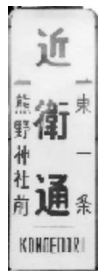
この橋は架橋から百年を経たが、幾多の洪水にも耐え、一度も流れず、壊れなかつた頑丈な橋。が当初の欄干と照明塔は、前戦争で金属供出で兵用に取り上げられた。戦後30年後、金属制になったが、元の華麗な姿に、戻されてい

ない粗末な姿。四角は戻されたが、何故か、七条大橋は70年後でも粗末なまま。何とか元の姿にと、七条大橋をキレイにする会をつくり、橋の清掃を通じて、架橋当時の華麗で重厚な欄干と照明塔の姿に戻して欲しいと運動を続けている。一度も流されず、東西交通を護りながら、何故か七条大橋だけ、忘れられている、可哀想でならない。物言えない、橋に代わって、これを書き加えた。

市電が走った 京都を巡る

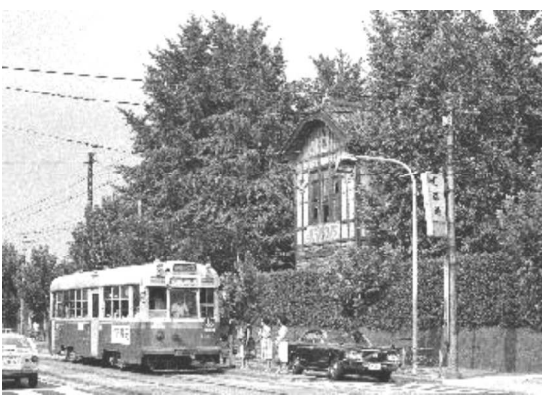
79

福田静二



市電は、東大路通を南下します。左手は京都大学の吉田南キャンパス、右手は医学部キャンパスと左右どちらを向いても京大の構内が続きます。前回の百万遍く東一条と同様に、市電の沿線、一般の民家・商店が見当たらないのはこの区間だけでしょう。

まるでキャンパスの中を市電が走っているようです。街路樹のプラタナスが大きな葉を茂らせるなか、まっすぐ伸びた東大路通りを市電は全速力で走り抜けます。ただ東一条以北と比べると、通行量はやや少ないように見受け



緑に囲まれ、洋館も見え、近衛通に到着する市電

られます。医学部は、今こそ建物が新築されていますが、市電の頃は煉瓦造りもある古い建物が多く、何となく不気味な気持ちになったものです。

市電が敷設される以前の大正時代の地図を見ますと、いまのキャンパスの区画と、帝国大学、医科大学、大学病院、第三高等学校とはつきり区画されています。地図では、のに東大路通と名乗る細い道路が南北に走っているのが確認できました。その後、大学用地の一部を削り、道路が拡張され、市電の敷設工事が始まり、市電が走ったのは昭和二年のことです。

そして到着する停留所が、近衛通です。近衛通とは、交差点を東西に横切る通り名で、平安京の近衛大路に当たるところから、この名があります。通り名は、西は鴨川、ここを途切れしてしましますが、平安京の近衛大路は、ずっと西まで延びています。現在では出水通が相当します。京都御所が現在の位置に移され、近衛大路は分断され、東は近衛通、西は出水通と呼ばれるようになったのです。なお近衛通は東へ向かうと、吉田東通で途切れま

す。停留場の背後には、京大のチャーター様式の洋館が見え、撮影のアクセントにもなりました。当時はサークル活動の拠点として使用されていましたが、付近で火災が起り、洋館も姿を消します。火災では、京大交響楽団の貴重な楽器も焼失する悲劇もありました。その奥には吉田寮があります。学生が運営する自治寮で、新しい棟も建てていますが、木造の建物が残り、経年ゆるの寮歌の世界が残っています。

街路樹の繁る東大路通を走る市電



交差点南東には、市電時代から電公社の吉田局がありました。いまもN11の京都吉田別館となっていますが、最近見ると、一階はコンビニが入店していました。これも時代でしょうか。東向かうと、オレンジ色の瓦が特徴的な建物、楽友会館があります。大正十四年に京都大学創立二十五周年を記念して建てられました。スパニッシュ様式を基調とした外装と室内装飾は大正建築の特徴を伝えています。登録有形文化財に指定されています。最近、改装を終え、当時の趣を残した会館として再生し、喫茶食堂は一般にも開放されています。

何んた坂 っこんな坂

父が酒小売
店から酒問

屋に転業し、マツダ三輪車自動を
購入し運転免許が欲しくなった。

父に言う「お母さんに言え」

で頼んだが、「母」が許可しない

無い。友人と「一緒に試験を受ける

段取りをしていたので、「何で返

事をしないの」と問い詰めた。返

て来たのは、勝手におしどうせ。

アンタは私の子や無いのやから！

との激しい言葉。近所や親戚の話

振りで、ヒョットしてと想像はし

ていたが、当時免許に必要な戸籍

謄本を見て、育ての母は実母で無

かったのだと確認。頭の中は真つ

白！当座必要な荷物を纏めて、吉

田中大路町の空家へ（祖母会長の天

理教会移転用）飛び出し、祖母と二

人で住み、高校に通った。

人の丁君と密かに参加した。会場
は当時の東山診療所の「階」だった。

少し遡るが、私は、終戦直後、

疎開地から、家に戻った10月10

日？日本共産党の徳田球一志賀義

雄両氏が、私の生まれる前から

18年ぶりに牢獄から解放の上の写

真文を新聞見た。

本も小林多喜二な

どのプロレタリア

小説も好んで読ん

出いて「共産党」

に強く関心を持っ

ていた。「日曜会」に何度か出席

ある日、君の様な複雑な家族関係

を無くすには、社会全体の仕組み

を革命で返るしかない！と入党を

進められ、数日後、応じた。



誰にも言わず密かにだった。

九月の気候は

いかがですか？

月三天

九月に入ると朝晩は涼しくなるはず
八月二十五日現在の予想では、九月

も暑くなるそうです。

昨日今日のことを記しますと、八月

二十四日は日の光が厳しく照りつけ

て、晩も温度が下がらない大変な日で

した。その前日、二十三日も熱帯夜で

ステツ フワード ・

去る8月
4日は橋

の目）フラ

リパッド

にとつて、

とても大切な日になりました。

この日、フラーパッドの

地元である東山七条の七條大橋

で、歴史上初のライトアップが

行われることとなり、その点灯式

にフラーパッドも参加させて

いただきました。

小さい頃から生活の中に当た

り前のように存在してきた七条

通りの鴨川、七

條大橋ですが、

サカタニさん

を中心とする

や地域への感謝を込めて、七條
大橋の上には」という歌を作り

ました。

この曲は当初、七條大橋を

キレイにする会」に捧げるため

に書いたのですが、今回のライ

トアップ点灯式で一般公開をさ

せていただくこととなり、地元

地域からのご支援・ご声援を強

く実感させていただきました。

来年でデビュー10周年を迎え

るフラーパッドですが、自分

たちがどれだけ地元地域の皆さ

んに支えられここまで来たのか

今回の写真）ライトアップで

再認識することができました。

これからは地元地域に恩返しを

するために、ここで立ち止ま

元の方々のためにライブを開く
という事です。今年には「周年

を前に、さらに前へ進んでいく

決意を表明する、そんな会にな

りそうです。例年、七夕にち

なんです。今年に行ってきたライブ

ですが、今年には準備を整えるた

めに9月の開催とさせていただ

きました。

折しも、街歩きを企画主催して

いるWAKING KOROさんとのコラ

ボレーションも決まり、昼間は

七條大橋からその界限をウォー

キング、夕方からサカタニさん

とライブと、1日かけてのイベ

ントとなりました。この日は地

域の皆さんと一緒に楽しみ、地

域の皆さんに自分たちの成長を

見ていただきたい、と、切に願

うフラーパッドです。

9月24日(日)、皆さんのご参加をお

待ちしております。

編集後記

△今月号の

手間取り、お届が、数日遅

くなり、読者のご投稿を頂

戴した方々にお詫び申しま

す。

▼編集者は只今83歳の、後

期高齢者ですが、子供時

代から勉強嫌い「で目を酷

使しませんでした。お陰で

今も両眼共「on」です。

新聞も、老眼鏡を使わずに

読めます。

▼と若いと自慢したいところ

ですが、記憶力が急激に低下

して来ました。昔の事は覚

えていないのに、先程使ったペ

言を探すことと再々。ヤッパリ

言いたくないが、歳には勝て

ない「様」です。

▽「さん」から「りん」も今まで

より完成に時間が掛かる

様になりました。来年の3

月で発行を止め様かなあと

只今思案中。が、止めると

ボケが更に進行しそうです。▼

そんな「ムレット」に、ご意

見を下さい。